

1. 議事の主な内容

- (1)会議の運営について 資料1－1 資料1－2 資料1－3 資料1－4
- (2)島根県の子ども・子育てを取り巻く現状について 資料2
- (3)しまねっ子すくすくプラン（県こども計画）の策定について 資料3
- (4)意見交換
- (5)今後のスケジュール 資料4

2. 議事概要

《開会あいさつ（昌子次長）》

- ・「こども大綱」を勘案し、3つの計画（すくすくプラン、青少年プラン、子どものセーフティネット推進計画）を一本化し、教育の計画との整合性も図っていく。
- ・今後、計画の一本化にあたり、現在、計画ごとに設置している3つの会議体の在り方について検討が必要。
- ・委員の皆様には、幅広い視点からご意見をいただきたい。

《議事（1）関係》 会議の運営について

- ・会長は肥後委員に決定
- ・会長職務代理者は小山委員に決定
- ・幼保連携型認定こども園認可審議部会委員は、資料1－4のとおり、7名の委員に決定（部会長は小山委員に決定）

《肥後会長さんあいさつ》

- ・第2期島根創生の骨子資料3－7が先般示された。
- ・この会議の役割は大きい。活発に議論いただきたい。

《議事（2）関係》 島根県の子ども・子育てを取り巻く現状について

資料2（差し替え）

- ・合計特殊出生率は、R4からの減少率が大きい。島根県も過去最低（2P）
- ・本県の初婚年齢は全国平均より低い。男女ともに島根県が一番若い（4P）
- ・結婚に対する意識調査結果によると、約半数が「ぜひ・できれば結婚したい」と答えているが、前回調査時（R3）よりは減少（5P）
- ・未婚の理由には男女差が見られる（6P）
- ・理想的な子どもの数と実際に予定している子どもの数に乖離（7P）
理由は男女ともお金がかかるが1番多い。女性に多いのは肉体的負担、仕事との両立（8P）
- ・放課後児童クラブの受入児童数が拡大する中、待機は発生。隠れていた利用ニーズの顕在化（9P）
- ・保育所利用児童数は年々減少（H30まで増加、それ以降減少）。
待機児童数はH28, 29以降減少。近年4月待機はほぼ発生していない（10P）。
- ・保育所が求めるようには保育士足りていない（13P）
- ・ひとり親世帯数は減少傾向。父子世帯は母子や寡婦に比べて年収高い（14P）。

《議事（３）関係》 しまねっ子すくすくプラン（県こども計画）の策定について

○資料３－１、資料３－２

- ・現行のすくすくプラン評価のまとめとして、各事業の目標値は設定していないが、全ての事業は計画的に実施され、子ども・子育て支援やひとり親家庭等の自立支援、結婚対策の充実などにつながっている。

○資料３－３、資料３－４

- ・３つの計画を一体的し、県こども計画として策定。
- ・島根創生計画との整合性を諮る必要がある。

○資料３－５と資料３－６ の関係

資料３－５ こども大綱に基づくこども施策重要事項一覧

- ・紫色の「１．ライフステージを通じて」の部分は、大きく次の２つに分けられる。
 - ・（１）子ども・若者が権利の主体であることの社会全体での共有等や、（２）多様な遊びや体験、活躍できる機会づくりといった「こどもの権利の尊重」や「活躍できる環境づくり」など、すべてのこども施策の根底にあるべき考え
 - ・次に、（３）子どもや若者への切れ目ない保健・医療の提供のうちの「慢性疾患・難病を抱える子ども・若者への支援」から（４）（５）（６）（７）は、特に支援が必要な子どもと家庭が安心して暮らせる社会づくりに位置付けるもの
- ・また、同じく紫の（３）子どもや若者への切れ目ない保健・医療の提供のうちの「プレコンセプションケア（結婚前からの健康管理）」や「切れ目のない支援体制の構築」は、いわゆる全てのこどもに向けた施策が含まれていることから、県計画では、この部分を、中段青色の「ライフステージ別の（１）①妊娠前から・・・」の施策体系の中に位置付けたいと考えている。

資料３－６ 次期すくすくプラン（こども計画）施策の展開

会議における委員意見を踏まえて、会議後に一部表記を差し替えております。

- ・目指す社会像に「次代を担うしまねの子ども・若者が幸せに暮らせる社会、結婚・出産・子育ての希望をかなえ、安心して暮らせる社会」を掲げている。
- ・構成は、「こども大綱」に対応する『３つの基本理念』の下に、『基本的な方向性（８）』、『基本施策（２１）』という形で考えている。
- ・基本施策を構成する『主な施策』は、「こども大綱」で求められている重要事項に対応するための「島根県の施策」がどのようなイメージになるかを、現時点の（仮の案）として示している。
- ・現行の３計画（すくすく、子どものセーフティ、青少年）の関連施策が分かるように丸文字で示している。
- ・New！ には、「こども大綱」で新しく示された視点と、既存３計画には明記されていないが実際には県各部局で取り組んでいるものもある。
- ・資料・施策体系全体について、今後も引き続き島根創生計画との整合性を諮る必要がある

資料３－７ 第２期島根創生計画（骨子）

資料３－８ 主な関連計画

《議事（４）関係》 意見交換

○委員

- ・資料３－６の○貧は○セにしたらどうか。

○委員

- ・松江市も同じような作り方をしていきたいと考えている。
- ・こどもの意見聴取が肝になる。秋には若者のワークショップを行う予定。手探りだが、失敗を恐れることなく、新たな視点を入れていきたい。
- ・市の一番の課題は少子化。総合計画でも考えていきたい。
- ・保育施設が今後安定した運営をしていくためにどうしていくか。中学校区別の過不足状況

に応じた認可の対応や定員の変更を柔軟に認めていく考え。

- ・施設の複合化がとりわけ必要になっていくと思う。
- ・保育士確保。配置基準の見直しによりさらに不足することが予測される。質の向上。
- ・幼小連携。なかなか進まない。非常に大事。後手に回りやすい。
- ・産後ケアに力を入れている。宿泊型も取り入れながら。ニーズが高い。これまでなかった取り組みが充実を求められてくる。

○委員

- ・こども計画の策定準備中。
- ・こども意見をどうやってとりいれていくか、今年初めてこどもにもアンケートを取った。県でどのようにこどもの意見を拾っていけるのか。
- ・人材不足。細かいサービスをするのが難しい。どうすれば安心・安全に運営していけるか。
- ・医療的ケア児など対応していきたいが町だけでは人材確保が難しい。利用者も少ないので、広域で取り組むことも検討。力を貸してもらいたい。

○委員

- ・人口減少が園の存続に係る大きな問題。市町村によって大きな差が出てきている。
- ・県内どこでも同じ支援を受けられることが大原則だが、なかなか平等にならない。
- ・県のこども計画を柱として、市町村計画には何がこどものためになるか、現実に沿った形で考えてほしい。
- ・地域拠点資源としての保育園が成り立っていくように、ひとつひとつの拠点・保育園が選択できるようになってほしい。

○委員

- ・原因や理由はわからないが、支援を必要としているこどもがずいぶん多くなってきていて、保育士の手間がとられるため、年齢・発達段階のとおりには育っているこどもたちは十分な保育が受けられない。
- ・ぜひ支援を必要とするこどもへの対応の仕方を記載していただき、実践につなげていただきたい。

○委員

- ・こどもの数の減少が課題。
- ・施設の形態がいろいろあり、保護者のニーズも様々。
- ・保育の質の向上目指していきたい。
- ・すべてのこどもが平等な教育を受けられる。ひとりひとりのこどもを大事に保育していきたい。育てていきたい。
- ・幼稚園だけではなく、幼児教育というくくりで考えられることが多くなってきている。横のつながりをもって計画を参考にこどもたちの支援をしていきたい。
- ・ウェルビーイングをキーワードに。すべてのこども、切れ目ない支援。幼保連携も。
- ・誕生前から青年期まで見通しをもったプランがあるのは素晴らしい。
- ・いっぱい支えている人がいるということをこどもたちにどのように伝わっているのかなと思う。みんなを応援していることが、当事者に伝わっているのか疑問。

○委員

- ・幸せとはなにか。「幸せ」と感じられることが一番。
- ・幸せな結婚、幸せな家庭、幸せな子育て、幸せな学校生活へ。心の部分が幼少期から養われていくことで、充実した学校生活につながっていくと思う。きめこまかい見通しを持った計画を。
- ・資料2 平均初婚年齢が若いということに打開策があれば、島根県の未来は明るいのでは。少子化の要因を分析してほしい。

○委員

- ・こどもたちの意見表明権などが書いてあってすごくうれしかった。20年間やってよかった。
- ・待つだけじゃなくて、進めていかなくてはならない。こどもたちは待っている。
- ・〇貧はさみしい。
- ・今日の資料は所属団体（つながるネ！ット）に説明してもいいか。
→今日の会議の資料の範囲であれば良い。（事務局）

○委員

- ・男性の育児促進など重なる部分あると思った。
- ・連携・協力して取組を進めていきたい。

○委員

- ・新しい計画の構成にはもれなく施策が入って、きちんと構成されているという感想をもった。島根創生計画の「人口減少に打ち勝つ」ための少子化対策の大きな柱となるべき計画。
- ・子育て支援は充実してきたが、結婚する人が減ってきている（過去最低）。
- ・行政が結婚支援を行うことには限界もある。5年間で一体どれだけ改善するのか。
- ・健康福祉部だけで取り組むのは難しい。全庁で取り組まなければ。
- ・若年層の賃金や雇用、男女共同参画にフォーカスして、肉厚の計画に。
- ・この際、新機軸を出したら。

○委員

- ・生の楽習講座（出前講座）が160校、こころバースデイ講座が30校。計190校でいのちの大切さを知ってもらう取組を行っている。
- ・いのちは大切、あなたは大切。大切に生まれてきて育っているということをこどもたち、親にも感じて欲しい。
- ・低出生体重児の割合が島根県は高い。プレコンセプションケアが大切になってくる。男女ともに健康な体でいることが大事。
- ・県のプレコンセプションケアは、どこをターゲットとして周知していくのかも課題。
- ・計画を立てても、実行して周知していかないと計画倒れとなってしまう。

○委員

- ・出会いがない人たちへ、どうやって出会いの場を提供できるか。セクハラになってはいけないとの懸念もあり、職場でも触れにくい話題。紹介しづらい。
- ・島根県には子育て家庭の負担軽減のためのいろんな支援があり本当にありがたい。もっとしっかりPRしてほしい。
- ・少ない人員でこどもを見てくれている教員・保育士への支援、賃金アップや環境改善を。
- ・賃金アップしていかないと、少子化解消になかなかつながらないと思った。

○委員

- ・弁護士への法律相談では再婚に関する相談が多い。複雑な家庭環境で育っているこどもが多いため、こどものことを一番に考えてほしいと伝えている。
- ・物価高騰の影響もあり、精神的にも不安定になりながら子育てをしているひとり親のお母さんがとても多い。

○委員

- ・資料2 理想の子どもの数と実際に予定している子どもの数の乖離の理由には経済的な理由が多い。
- ・賃金アップの必要性について県でしっかり情報を発信し、企業に情報の落とし込みができるようにしてほしい。
- ・県の方で音頭をとってもらえるといい。企業としてもしっかり受け留めてやっていく

い。

○委員

- ・こどもを国・県でしっかり育てようという意識が伝わってくる。
- ・県の計画と市町村の計画がドッキングして、各家庭にしっかり情報提供されることが必要。
これだけ支援策があることを子育て世代は知らないのでは？ SNSやAIなど新しい手法も活用して情報発信してほしい。
- ・こどもたちの「学ぶ権利」について深堀を。教育を受ける権利を阻害されているヤングケアラーのこどもたちや障がい児を育てる家庭への支援を。きょうだいが発達障がいの場合、親は働きに出られない。
- ・3年以内の離職率が高い若者たち。就労支援が必要。彼らは、社会に出てから直面する「不幸や理不尽」を知っているのだろうか。社会に出る前に、こどものときから、それらを受け入れる力や、自分の中で解決できる力をつけていかなければならない。

○委員

- ・島根県は子育て支援にかなり手厚い（市町村が頑張っている）が、どこまで情報が届いているのか。県立大学の学生なら知っているかと思ったが、知らないことが多い。こどもが小さい時から支援策を伝えていくことが大切。
- ・0～2歳の保育料が高い。もっと経済的支援を進めてほしい。
- ・病児保育、放課後児童クラブ、貧困家庭への支援など市町村によって取組に差がある。もっと市町村の取組を促してほしい。
- ・子育て支援の充実を結婚・出産にどうやって結びつけるか。1—1—（1）—①妊娠・出産に関する正しい知識の普及、相談体制の強化を具体的に書いてもいいのかも。もっと、地域の教育が伝わりやすい小・中・高校生のうちに、こどもたちが情報に触れる機会を増やすことが必要。
- ・こどもの意見を聞くことが大切。小・中・高校の時の居場所づくりが抜けているのでは。島根っていいなと思えるように。島根に住み続けたい、帰りたいと思う学生を増やせるように。
- ・若者の出会いの場がない。働く場がない。給料アップに県全体でどう取り組んでいけるか。

○委員

- ・人口減少に対して保護者として何ができるか。出雲市保育協議会では市教委に働きかけて、これからこどもを産んでくれる中2、3年生にターゲットを絞って中学校15校で保育園の体験学習を進めている。中学校ブロックごとに保育主任クラスを派遣して、家族って、人って素晴らしいこと。こどもっていいよね、産みたいよね、産んでもいろんな支援があること、保育園でこどもを育ててくれることを知ってもらいたい、そう考えて「種まき」を始めた。
- ・10年後の結果（効果）を求めて始めたアプローチ。R5年度は3校、今年度はさらに1校増やして計4校で取り組んでいる。
- ・こどもを産むことが「当たり前」と思ってもらいたい。
- ・いろんな機関が知恵を絞ってどんなことができるかを考えていけたらいい。

○まとめ

（1）こどもの権利（主体）について

- ・これまであまりまじめに取り組んでこなかった。本気でやるのは大変。どこまでできるか。
- ・アンケートをして終わりではだめ。新しい価値観の発信を。

（2）当たりの多様性について

- ・多様な当たり前があり、いろんな人生があることを知ってもらうこと。発信していく

ことが重要。

(3) 次期計画の目玉施策について

- ・ 紐づけていく計画は大事。網羅することも大事だが、これが次期計画の目玉施策であるという県民へのアピール性はない。
- ・ 県には「県民普及版計画」を作してほしい。市町村との連携により、発信力のある取組を。

(4) 支援者への支援について

- ・ 支援者支援をもう少し手厚くしないといけないのでは。

○こどもを大切にするためのアピール、計画の見せ方の工夫を。

例えば、中・高校生を中心としたこども部会を設置し、県の施策を考えてもらうなど、思い切ったアピールもいいのでは。

《議事（5）関係》 今後のスケジュールについて 資料 4

- ・ 今年度の推進会議は計4回開催予定。
- ・ 第2回（11月）に素案審議。
- ・ 第3回（12月）にはパブリックコメント案等審議
- ・ 第4回（3月）には、パブリックコメントへの対応方針と計画の最終案を説明